

ランチトーク & ミーティング 「研究者なう」 開催 2012 年 10 月 16 日

2012 年 10 月 16 日、本学人間科学学術院助教：藤井靖先生をお招きし、戸山キャンパス 39 号館第 5 会議室でランチトーク&ミーティング『研究者なう』を開催しました。また、今回はサポーターとして文学学術院の越川房子先生にもご参加いただき、活発な質疑応答で大変盛況な会となりました。

まずはランチトーク&ミーティングということで、あまり堅苦しくならないようにご参加の皆さんが、日頃疑問に思っていること、不安に感じていることなど、ざっくばらんにお話していただくところからスタートいたしました。その中で「博士課程に進もうと考えているが、将来が不安。後戻りできないのでは?」「留年した場合にまわりからどう思われるのか。」「研究と同時に生活のことも考えていかななくてはいけない。奨学金はどうやって取るのか」など、普段はなかなか誰に聞いたらいいいのか、どう情報を得たらいいいのか躊躇してしまうような質問に対して、藤井先生からは「必ずしもひとつのことに集中しなくてもほかに目を向けてもいいのでは」、「留年した間に何を学んだかが大切」といったアドバイスをいただき、越川先生からも多くの有意義な助言をいただきました。

次のセッションとして、藤井先生からご自身の体験を踏まえて、どのように活動し現在に至っているのか、また今後のプランとしてどういうことを考えているか、大切にしていることは?といった内容のお話をさせていただきました。藤井先生は、ご実家が老舗の和菓子屋を営んでいたことをきっかけに経済学部に進まれたこと、学生時代に携わった家庭教師のアルバイトを通じて子どもの教育や支援にかかわっていくことに興味が出てきたことから「臨床心理学」を志そうと「人間科学部」に入りなおしたこと、また就職活動と研究を続けることを選択で悩まれたこと、そして現在の研究テーマである IBS について、事例を交えながらわかりやすく紹介をさせていただきました。

藤井先生からのお話の最後に、ご自身が仕事において大切にされていることとして (1) 内的キャリア (価値観) を確認するようにしている、(2) スペシャリストであり、ゼネラリストでいたいと思う、(3) 人に優しい人でありたいと思う、(4) ガッツリやる時期をたまに設定する、(5) 社会人・組織人としての自分の立ち位置、役割を忘れないようにしたい、という 5 カ条を示されました。越川先生からは「皆さんもぜひこれを大切にしてほしい」という言葉をいただき、出席の方々からは多くの共感の言葉をいただきました。

お話のあとは再度質問の機会を設け、予定の時間を 30 分オーバーするほど話がはずみ、出席者の皆さんも晴れやかな顔で退室をされました。



◁藤井先生によるご自身の体験談を交えたキャリアの紹介